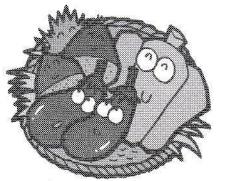


# 野菜作り

## Q&A



### 畑の土づくり

**Q** 石灰資材の種類と施肥方？

**A** 畑の準備には石灰資材と堆肥・肥料は別々に施すべきです。硫酸や塩安などの窒素肥料、油

かす、米ぬかなどの有機質肥料と一緒に石灰資材を施すと、アンモニアなどの有毒ガスが発生し、ガス障害を受けます。

一般に、石灰資材は植付けの二週間前に散布しよく耕します。そして、一週間前に堆肥と肥料を施します。

アルカリ分の多い消石灰（七〇％以上）は散布後すぐに土とよく混ぜ、必ず二週間は開けて作付けします。苗の根が触れると障害を引き起こします。炭カルや苦土石灰はアルカリ分が少なく（五〇％）酸性土壌や根の分泌する有機酸に溶けてじっくり効いてきます。貝化石は四〇％で肥料との同時施用が可能です。

**Q** 質土壌より控えめに施します。

**A** 堆肥の選び方？

市販の家畜フンは、ほとんどが堆肥化した発酵フンです。

発酵フンは一度微生物が分解しているの、肥効も乾燥フンよりおだやかで肥やけやガス障害の心配は比較的低いありません。

家畜フンには鶏・豚・牛があり、含まれる肥料分や繊維分が違います。鶏フンは繊維分が少なく速効的な化成肥料なみの肥効を示し、堆肥というより有機質肥料です。

牛・豚のフンをバーク（樹皮）やオガクズに加えて発酵させた家畜フン堆肥がお勧めです。

なお、作物によって堆肥が向いていないものもあります。窒素分をあまり必要としないサツマイモ（つるボケ）、ダイコン（岐根）やジャガイモ（肌荒れ）などです。

なお

肥料の保持能力が小さい砂質土壌では石灰資材の施用量は粘

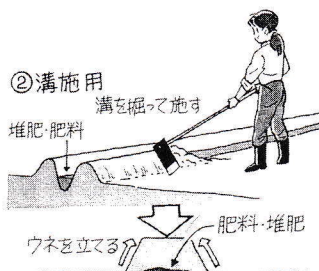
**Q** 堆肥や肥料の施肥法？

**A** 堆肥や肥料の施肥方に、石灰資材のように全面に散布し深さ一五〜二〇cmの全層に耕しながら混ぜ込む全層施用と、畦立て前に畦の中央部に溝を条状に掘って施し畦を立てる溝施用があります。

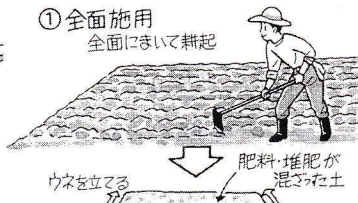
全層施用は肥料や堆肥がすぐに土壌となじんで肥効が早く、広い畦でコマツナなどの軟弱野菜に適しています。

溝施用は根が施肥部に達してから効いてきます。果菜類など根の深く張るものに適しています。

施用してすぐに播種・定植ができます。



② 溝施用  
溝を掘って施す  
肥料・堆肥  
ウネを立てる



① 全面施用  
全面にまいて耕起  
肥料・堆肥が混ざった土  
ウネを立てる

★トマト、キュウリ、ナスなどの果菜向き  
★施用してすぐに播種・定植ができる

★コマツナ、ホウレンソウなど軟弱野菜向き

J A グリーンかほく  
営農指導担当 山辺 守